

近世日本雇用史資料：その四、大隅国高山郷守屋舎 人日帳

秀村，選三

<https://doi.org/10.15017/4362566>

出版情報：経済學研究. 28 (6), pp.65-81, 1963-02-25. 九州大学経済学会
バージョン：
権利関係：

近世日本雇用史資料

—その四、大隅国高山郷守屋舎人日帳—

解題

秀村選三

今回は幕末期薩摩藩における一上層郷士、大隅国高山郷（とうやま）（鹿児島県肝属郡高山町）の守屋舎人重堯（一七八九—一八七二）の日帳（守屋雄次郎氏所蔵）より守屋家の手作や家生活における労働

の実態をうかがうために表を作成した。すなわち弘化三年（一八四六）・同五年（嘉永元年一八四八）・嘉永二年・同三年・安政七年（万延元年一八六〇）・万延二年（文久元年一八六一）・文久二年（一八六二）につき各年度の日々の労働の内容とその労働に従事する人名を表示することにした。もっとも、どの年度も部分的にしかり得ないが、しかし各年度の月日を陽曆に換算し、陽曆

近世日本雇用史資料

の月日に応じて各年度のデータを重ね合わすならば、或程度一年間を通じて農作業や山作業、家内の雑事等における労働の種別や内容をうかがい得るであろう。また従事せる人名を諸種の史料によって調査することによって守屋家の労働組織の性格も或程度推測することが出来るとおもわれる。

今迄守屋舎人家については若干の考察をなしたが、その中でも安政四年・同五年・元治元年については本資料と同様な表を作成し、三ヶ年分を組み合わせて労働の種別、内容、月別の配分、労働組織について分析したことがある²⁾。その後守屋舎人日帳の他の年度についても読む機会に恵まれたので、前回の補遺の意味もありここに掲出することとする。

守屋家および守屋舎人についてはさきに発表せる諸論文において数回ふれたことがあるのでここでは詳しく述べない。大隅国高山郷の宗廟四十九所大明神の社家頭取で組頭・郷士年寄を勤むる家柄であって、持高四十石余、門（かど）の領主であり、一門を持切門、他に數門を持合門として支配している。しかも浮免・抱地（かひち）を所持し手作すると共に一部は小作にも出していた。社家頭取の面は別としても、一般的に云って薩摩藩の上層郷士の一典型ということ

第二十八卷 第六号 六五

が出来よう。

守屋舎人日帳は文政八年（一八二五）十月十三日より明治四年（一八七二）十一月十三日に至る記録で、幕末・維新时期における薩摩藩の上層郷士の公私の生活全般について種々貴重な史料を提供してくれるように思われる。もちろん殆んど高山郷一郷に関することであって、その視野は広いとは云えないが郷村統治および郷村生活・家内部の記事はヴィヴィッドで公文書に見ることの出来ない具体性をもっている。概して云えば、舎人が郷の役職に就いている時期には役向——郷村統治・支配、調練、藩役人の応対、出府——について詳しく、役職に就いていない時期には村落や家の生活慣行・農業・郷内の祭祀等について詳しい。役職就任の時期と日帳の残存状態を表示すると次の通りである。

年度	年齢	役職	残存の日帳
寛政十年	1才	(二月十三日誕生)	
文政八年	28	十月廿二日与頭	十月十三日
九年	29		
十年	30		
十一年	31		

十二年	32	天保元年	九月廿九日郷士	九月十二日
十三年	33	(一八三〇)	年寄助	(此の間欠)
十四年	34	二月		
十五年	35	八月	退役御免	正月廿一日
十六年	36	七月廿八日	郷士	(此の間欠)
十七年	37	七月	年寄助	七月一日
十八年	38	九月	十月郷士年寄	
十九年	39	二月十九日	退役御免	
二十年	40			
二十一年	41			
二十二年	42			
二十三年	43			
二十四年	44			
二十五年	45	(正月廿六日)	継目免許	
二十六年	46			
二十七年	47			
二十八年	48	弘化元年		
		(一八四四)		

六年	五年	四年	三年	二年	元年	六年	五年	四年	三年	二年	元年	四年	三年
62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49
	九月廿四日 退役御免 寄下ナル								二月十日 郷十年寄				
二月廿八日	四月十二日	正月元日	十一月廿六日	十月十六日	五月十七日 五月十八日	二月廿七日	十一月十一日	二月六日	二月五日	正月元日	十二月廿九日	閏五月十九日	閏五月廿九日

四年	三年	二年	元年	三年	二年	元年	三年	二年	元年	二年	元年	文久元年	万延元年
74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	64	63
			二月退役御免			閏五月 嘸						四月七日 郷十年寄	
十二月廿四日死	七月十一日	七月十二日	六月十三日	六月十四日	七月一日	十月廿四日	十月廿六日	九月廿九日	五月十三日	五月十四日	九月十九日	八月十九日	八月十九日
十一月十三日 (以下欠)													(此の間欠)

※日帳は綴紐が切れ相当分散・混雑していたが右の如く整理・復原した。一、二問題の箇所もあるが一応右の如くしておく。

したがってここに掲出するものは比較的晩年の、しかも役職から離れていた時期が多い。

ところでここに表示する作業や作物については大隅地方独特のものもあり、また方言で書かれたものもあり、説明を要するものが少くない。地名についても説明を要するであろう。いずれも前に発表せる論文を参照していただきたい。人名については各作業に従事せる者の社会的性格を明らかにする必要があるが、日帳或は他の史料で実証することが必要で別稿において取り上げたいと思っている。大雑把に云って経常的には年中下人(デカン・メロ)日雇下人(ヒマ)、³⁾ 臨時的には永代下人・子方的な郷士および社家(平社家・田舎社人)を主体としている。舎人自身やその子俊佐(納右衛門、後の常磐)も加わることがあるが監督的なものである。かくして相当規模の手作(嘉永四年田約一町二反・皇約二町三反、元治元年田約一町六反・皇二町三反)⁴⁾ がなされ上層郷士としての生活が営まれたのである。

註(1) 幕末薩藩郷士の農業経営と下人(経済学研究第十九巻第三号)・郷士手作における畑作の態様(九大九州文化史研究所紀要第六号)・薩藩郷士の手作における労働の態様(宮本

又次編、九州経済史論集第三巻所収)・薩藩における上層郷士の労働組織(近世日本の経済と社会・本庄栄治郎先生古稀記念論文集所収)・幕末薩藩における上層郷士と永代下人(土地制度史学第一号)。

(2) 右の第三論文労働の態様・第四論文労働組織参照。

(3) 秀村、近世日本雇用史資料(一)(経済学研究第二七巻第六号)参照。

(4) 史料の面積は一間六尺五寸竿であるから六尺竿に換算した。

凡 例

一、上段にその年度の月日を掲げ、これを陽曆に換算した。

二、作業の欄中、従事せる時間が明かな場合はこれを「」内に入れた。

三、地名には右傍に・点を付した。

四、従事せる人名は()内に入れた。人名が不明でも下人とか屋根葺き・大工等の種別、或は人数が明かな場合はこれを入れた。

五、誤字・あて字には正字の傍註を付した。

弘化三年（一八四六）

月日	陽曆換算	作業の種類（従事せる人名）
閏五・廿六	七・一九	○千町田植田に油入（舍人・善八）
六・四	七・廿六	○〔五ツ時〕暮・松元余地粟作、城之裏粟作并粟引（舍人・下人其外七人）
六・五	七・廿七	○〔一六ツ半〕森之下粟作
六・六	七・廿八	○〔八ツ時〕暮・丸田牧粟作
六・十六	八・七	○屋敷大根蒔入
六・廿一	八・十二	○〔八ツ過々〕煙草切ニ頼ム（利兵衛）
七・十	八・卅一	○〔朝一八ツ時分〕墓拵（下人二人）
七・十一	九・一	○〔五ツ過一〇日入時分〕小森原に蕎麦作（下女下人五人）
七・廿四	九・十四	○今日々赤籾取始
八・三	九・廿一	○煙草切（日高利兵衛）

弘化五年（嘉永元年）（一八四八）

三・廿七	四・卅	○永山・西瓜作（勘次郎） ○馬屋延青（屋称） 延音四人・小取六人
------	-----	-------------------------------------

四・二	五・四	○〔四ツ時々〕茶あぶり（日高利兵衛）
四・三	五・五	○茶焙（〔五ツ時々〕山口喜右エ門〔四ツ時々〕日高利兵衛）
四・五	五・七	○〔五ツ半々〕茶焙（日高利兵衛）
四・六	五・八	○茶焙（多伸・左膳妻）
四・十三	五・十五	○中間西瓜蒔次（舍人）
四・十九	五・廿	○永山西瓜掛肥
四・廿二	五・廿四	○千町麦取（舍人・善八・勘次郎・すゑ）
四・廿五	五・廿七	○永山中間西瓜肥 ○〔八ツ時々七ツ半〕城之裏大蕪青子取（舍人・善八）
四・廿七	五・廿九	○西瓜肥掛（善八）
五・朔	六・一	○権現ヶ迫裸麦取（下人共）
五・三	六・三	○煙草切（日高利兵衛） ○宮下村へまこも貰（勘次郎）
五・四	六・四	○粽加勢（源大夫）
五・十六	六・十六	○永山西瓜追肥
五・十七	六・十七	○菓穂取（舍人）
五・十八	六・十八	○菓差（舍人） ○骨はたき・屋敷取草 （山口喜右エ門）
五・十九	六・十九	○中間西瓜中打

五・廿五	六・廿五	七・十八	八・十六	〇薪取・大豆草取・中引・中打(下人共)
〇松下屋敷椿芽かき	〇松下屋敷松元	〇朝(等取(下人共))	〇(朝)等取(下人共)	
余地に草葉引(下人共)		〇道中へ遣ス(勤次郎)	〇道中へ遣ス(勤次郎)	
五・廿八	六・廿八	八・五	九・二	〇(六ツ過ガ八ツ時)道中蕎麦四反作入(舍人・下女下人五人)
〇千町田苗取(八人)	〇苗取(老人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇松本屋敷粟中引(下人共)
〇(六ツ半)千町田植田(下人共・朝拾七人・昼拾老人)		〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	
五・廿九	六・廿九	八・六	九・三	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)
〇(四ツ時)中牧畠大豆作入・権現ヶ迫大豆作入(舍人・下人共)		〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	
六・三	七・三	八・七	九・四	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)
〇(四ツ時)中牧畠大豆作入・権現ヶ迫大豆作入(舍人・下人共)		〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	
六・四	七・四	八・八	九・五	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)
〇(八ツ時)千町田植田見廻り・永山中間西瓜見廻り(舍人)	〇煙草切(日高利兵衛)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	
六・十一	七・十一	八・九	九・六	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)
〇(五ツ時分)丸田牧大豆作入(舍人・下人共)		〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	
六・十二	七・十二	八・十一	九・八	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)
〇(九ツ半)七ツ時城之裏大豆作入(舍人・下人共)	〇唐芋引掛(下人共)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	
〇西瓜見(舍人)		〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	
六・廿二	七・廿二	九・三	九・廿九	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)
〇中間西瓜取ニ遣ス(下人共)		〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	
六・廿六	七・廿六	九・十二	十・八	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)
〇(九ツ半)七ツ半松元余地・松下屋敷粟作(舍人・下女・下人)		〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	
七・十	八・八	九・十四	十・十	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)
〇墓拵(舍人・泰造下人)		〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	
七・十一	八・九	九・十七	十・十三	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)
〇行燈張(日高利兵衛)		〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	
七・十二	八・十	九・十八	十・十四	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)
〇梵道作・庭草取加勢(福見四郎)		〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	〇(八ツ時七ツ半)城之裏蕎麦作入(舍人)	

十・廿四十一・十九 ○煙草切(日高利兵衛)

十二・十一 一八四九
一・五 ○すゝ下げ、箸かき

嘉永二年(一八四九)

三・朔	三・廿四	○加勢ニ参(富山村奥門善八)	閏四・三	五・廿四	○茶焙
三・二	三・廿五	○新植楮直方(舍人・善八・勘次郎)	閏四・四	五・廿五	○茶焙
三・八	三・卅一	○朔日ヶ加勢、昨日帰(善八)	閏四・七	五・廿八	○朝)茄子種、(昼)胡瓜・ふるふ手吳
三・十四	四・五	○煙草切(日高利兵衛)	閏四・廿一	六・十一	○(五ツ過迄)松元余地苗楮草取
三・廿二	四・十四	○五社屋敷竹切(舍人・甚助・勘次郎)	閏四・廿三	六・十三	○小麦刈(切通仁平太・山口喜右エ門相頼ム)
三・廿三	四・十五	○屋根薺	五・四	六・廿三	○(四ツ一八ツ時)粽加勢(津曲仲助)
三・廿六	四・十八	○煙草切(日高利兵衛)	五・九	六・廿八	○屋敷取草(山口喜右エ門)
四・十一	五・三	○(四ツ半ヶ)茶焙(日高利兵衛・清右門)	五・十二	六・廿九	○草葉引(山口喜右エ門)
四・十二	五・四	○(四ツ時)八ツ半茶焙(日高利兵衛)	五・十三	七・一	○千町田草はめ(山口喜右エ門其外)
四・十三	五・五	○田之下地(切通仁平太・十八) ○茶焙(舍人)	五・十四	七・二	○(八ツ過迄)千町田草はめ(下人共)
			五・十五	七・三	○千町田草はめ(老人) 千町田草負(老人)
				七・四	○千町田田植相濟(拾五人)

五・廿三	七・十二	○〔八ツ時―七ツ時〕城之裏大豆作	八・廿五	十・十一	○〔四ツ時〕障子張(日高利兵衛)
五・廿四	七・十三	○大豆作(切通仁平太)	八・廿六	十・十二	○〔五ツ時〕障子張(日高利兵衛) 万石取(五人)
五・廿五	七・十四	○寺田草取(福留門小太郎) ○〔八ツ時〕權現ヶ迫大豆作(舍人・小太郎)	八・廿七	十・十三	○万石取(六人)
五・晦	七・十九	○〔四ツ時―九ツ時〕煙草切(日高利兵衛)	八・廿八	十・十四	○万石取(六人)
六・四	七・廿三	○書物虫干(日高利兵衛)	九・二	十・十七	○〔四ツ時〕過ヶ八ツ時煙草伐(日高利兵衛)
六・五	七・廿四	○〔八ツ時〕夜入丸田牧大豆作入(舍人・下人共)	九・三	十・十八	○中牟田赤粃取(下人共)
六・十	七・廿九	○〔四ツ時〕松元余地粟作(舍人・小太郎・はき) ○〔昼〕粟作(下人共)	九・四	十・十九	○寺田赤粃取(下人共)
七・六	八・廿三	○〔四ツ時〕行燈張・煙草切(日高利兵衛)	九・五	十・廿	○千町田餅取(下人共)
七・十	八・廿七	○墓拵(舍人・泰造下人)	九・六	十・廿一	○千町田餅取(八人)
七・十二	八・廿九	○〔四ツ時―七ツ時〕煙草切(日高利兵衛)	九・七	十・廿二	○〔九ツ時〕過ヶ八ツ時城之裏太蕪青子作入(舍人) ○柴差
七・廿三	九・九	○〔九ツ時〕過ヶ七ツ半城之裏蕎麥作(舍人・下人共)	十一・一	十二・十五	○小麦肥負(下人共)
七・廿五	九・十一	○〔五ツ時―九ツ半〕丸田牧蕎麥作(舍人・下人共)	十一・三	十二・十七	○城之裏・權現ヶ迫小麦時(切通仁平太・女二人) ○ほり方(勘次郎)
八・廿三	十・九	○〔九ツ時―七ツ時〕障子張(日高利兵衛)	十一・廿五	十二・八	○煙草切(日高利兵衛)
			十一・廿九	十二・十二	○〔八ツ半時分―五ツ時分〕煙草切(日高利兵衛)
			十二・廿四	二・五	○〔八ツ半―五ツ時分〕煙草切(日高利兵衛)

嘉永三年（一八五〇）

正・十一	二・廿二	○小森茶縁拵（下人共） ○丸田牧・迄相 濟（南次郎・市郎・次郎）	六・朔	七・九	○〔終日〕千町田植方
正・廿	三・三	○崎山野火除（下人南次郎・津曲竜右エ門下人同道ニ而書遣ス）	六・三	七・十一	○〔八ツ時―七ツ過〕城之裏大豆作入（舍人・下人共）
正・廿三	三・六	○わた打（左織・勘左エ門）	六・五	七・十三	○〔五ツ時―四ツ過〕城之裏大豆作入（舍人・下人共）
正・廿六	三・九	○田布尾乱杭伐（下人市郎・南次郎） ○〔八ツ過―五ツ時〕煙草切（日高利兵衛）	六・六	七・十四	○〔八ツ時―七ツ半〕權現ヶ迫ヶ中牧大豆作入（舍人・下人共）
二・廿二	四・四	○千町田井手開（下人市郎）	六・廿五	八・二	○松取（次郎）
三・廿	五・一	○中牧島へ行（隼人・南次郎）	六・廿八	八・五	○西田之小八所へ木臼持ニ遣候（小市・次郎）
三・廿五	五・六	○茶焙（多仲）	七・廿	八・廿七	○〔朝―四ツ過〕城之裏蕎麥作（舍人・下人）
四・七	五・十八	○煙草切（日高利兵衛）	七・廿一	八・廿八	○西田之上富教方（舍人・南次郎）
四・十二	五・廿三	○佐牟田下地（山口喜右エ門・児玉衛守）	七・廿五	九・一	○〔五ツ時―九ツ時〕丸田牧蕎麥作（舍人・下人）
四・廿五	六・五	○八幡馬場屋敷裸麥取	七・廿八	九・四	○煙草延（上床助四郎）
五・八	六・十七	○煙草切（日高利兵衛） ○小麥打方（市郎・南次郎）	八・廿二	九・廿七	○今日ヶ赤親取頼入（山口喜右エ門）
			九・十二	十・十七	○〔一刻〕煙草切方（日高利兵衛）
			九・十六	十・廿一	○〔五ツ時分ヶ〕垣普請 ○〔九ツ時ヶ〕障子張（日高利兵衛）
			九・十八	十・廿三	○〔五ツ過〕薪負駄付越（福見四郎）

二・六	二・廿七	○臼摺・米春(助右衛門) ○崎山松薪取(八ツ半晝)(三太郎・八十)	二・十八	三・十	○崎山松薪取(三太郎・八十) ○崎山杉下草(助右衛門・次郎) ○(五ツ過暮)崎山行(舍人)
二・九	三・一	○焼酎煮(三太郎) ○馬之綱かき(八・正八・次郎)	二・十九	三・十一	○崎山松薪取(三太郎) ○崎山杉下草(助右衛門・長四郎・次郎) ○崎山行(舍人)
二・十	三・二	○肥入俵あみ(三太郎) ○薪割、(七ツ半)米春(八・正八・次郎)	二・廿一	三・十三	○崎山柴薪取(三太郎) ○崎山杉差入(灰焼(八十) ○(四ツ一暮)崎山行(舍人・倭佐)
二・十一	三・三	○崎山松薪取(三太郎・八十) ○崎山下草(次郎)	二・廿二	三・十四	○崎山松薪取(三太郎・口郎・加勢仁八) ○崎山灰焼(八十) ○(四ツ一暮)崎山行(舍人)
二・十二	三・四	○崎山松薪取(三太郎・八十) ○崎山下草(次郎)	二・廿二	三・十四	○崎山松薪取(三太郎・口郎・加勢仁八) ○崎山灰焼(八十) ○(四ツ一暮)崎山行(舍人)
二・十三	三・五	○(五ツ半)暮・横頭杉・櫛式千式百五拾本差入(舍人・倭佐・三太郎・八十・次郎)	二・廿一	三・十三	○崎山柴薪取(三太郎) ○崎山杉差入(灰焼(八十) ○(四ツ一暮)崎山行(舍人・倭佐)
二・十四	三・六	○小繩なひ(三太郎) ○薪割(八十・次郎)	二・廿二	三・十四	○崎山松薪取(三太郎・口郎・加勢仁八) ○崎山灰焼(八十) ○(四ツ一暮)崎山行(舍人)
二・十五	三・七	○崎山松薪取(三太郎・八十)	二・廿三	三・十五	○田鋤(三太郎) ○田打(八十・正八・次郎)
二・十六	三・八	○崎山松薪取(三太郎・次郎) ○崎山杉下草(長四郎・八十) ○(四ツ一暮)崎山行(舍人)	二・廿三	三・十五	○田鋤(三太郎) ○田打(八十・正八・次郎)
二・十七	三・九	○崎山松薪取(三太郎・長四郎) ○崎山下草(助右衛門・八十・次郎) ○(四ツ一暮)崎山行(舍人)	二・廿四	三・十六	○牛之口ひら作(三太郎) ○薪割(八十・正八・次郎)
			二・廿五	三・十七	○田鋤(三太郎) ○田打起(正八・次郎・八十)
			二・廿六	三・十八	○田打起(助右衛門・八十) ○(朝)模

二・廿七	三・十九	合跡へ杉差、〔昼〕田打起(次郎) ○庭鳥玉子だかせ	三・十一	四・一	○崎山杉下草払(八十・次郎) ○〔四ツ〕七ツ半)崎山行(舍人) ○苗床よみ(三太郎) ○蚕飼方始る
二・廿八	三・廿	○田すき(三太郎) ○田打越(助右衛門八十・次郎) ○札立方為致候	三・十二	四・二	○崎山下草払(小市・辰五郎・八十・次郎) ○雜葉蒔入(三太郎)
二・廿九	三・廿一	○朝)田鋤(三太郎) ○朝)田打起(次郎) ○田踊有之	三・十三	四・三	○崎山杉下草払(小市・辰五郎・八十) ○〔四ツ〕崎山行(舍人) ○雜葉蒔入(三太郎) ○兒嶋祐齊家作加勢ニ遣ス(次郎)
三・朔	三・廿二	○稲摺(八十) ○朝)薪割(八屋)米春(次郎) ○朝)飯屋へ差越(昼)薪割(三太郎)	三・十四	四・四	○崎山下草払(小市・助右衛門・八十・次郎) ○〔五ツ〕過一暮)崎山行(舍人) ○雜葉蒔・焼耐煮(三太郎)
三・二	三・廿三	○内ニ召仕(八十・三太郎)	三・十五	四・五	○崎山杉下草払・焼方(辰五郎・助右衛門・八十・次郎) ○〔四ツ〕暮)崎山行(め差(舍人) 倭佐) ○田鋤(三太郎) ○石修甫(福留門小太郎)
三・四	三・廿五	○倭佐等鶴戸參詣ニ召列(八十) ○内ニ召仕(三太郎・助右衛門)	三・十六	四・六	○鶴戸參詣召列(次郎) ○煙草肥入(三太郎) ○大根草取(正八・八十)
三・五	三・廿六	○病氣(三太郎) ○薪割(八十)	三・十七	四・七	○千町田苗床大根草はめ(三太郎・八十)
三・六	三・廿七	○内ニ召仕(三太郎・八十・次郎)	三・十八	四・八	○城之裏大根草取・負方(正八・次郎)
三・七	三・廿八	○崎山杉下草払(八十・次郎) ○崎山杉下草払(八十・次郎) ○鼠すき(三太郎)	三・十九		○川上社參詣召列(乙) ○朝)竹灰取(三太郎) ○吉井宗太郎所
三・八	三・廿九	○田地式番打起(三太郎・八十・次郎)			
三・九	三・卅	○鐘之溜池成就踊見物(三太郎・八十・次郎)			
三・十	三・卅一				

閏三・七	四・廿七	○畠鋤(三太郎) ○畠打(八十・次郎)	六・八	七・廿五	○白ノ目切(福留門小太郎)
閏三・八	四・廿八	○畠すき(三太郎) ○木之葉取(八十)	六・十四	七・卅一	○八ッ時 ^ト 暮 ^ト 尾瀬那粟作(舍人・下人共) ○居家棟取(多仲)
		○佐牟田溝堀(次郎)	六・十七	八・三	○城之裏粟作入(舍人・下人共)
閏三・十八	五・八	○瓜・西瓜蒔次	六・廿三	八・九	○児嶋竜右衛門所行に召列(八十)
四・朔	五・廿一	○胡瓜・西瓜蒔次	六・廿五	八・十一	○暮六ッ ^ト 地頭仮屋御用(下人共)
四・二	五・廿二	○家棟取(多仲・下之門之三)	七・二	八・十八	○山下之上へ遣ス・芝灰焼(小市・助右衛門・三太郎・次郎)
四・十一	五・卅一	○薬買 ^ト 野崎村代官司所へ遣ス(次郎)	七・四	八・廿	○八ッ時 ^ト 九ッ時 ^ト 崎山家作木見合(舍人・倭佐・涉江三次郎・八十)
四・十六	六・五	○裸麦取・小麦刈 ^ト 城之裏 ^ト (下人共)	七・廿一	九・六	○煙草延(多仲)
四・廿	六・九	○五ッ過 ^ト 七ッ過 ^ト 同上(舍人・女杯)	七・廿二	九・七	〃〃〃相濟
五・四	六・廿二	○麦刈(女杯・下人共)	七・廿四	九・九	○城之裏・麻之跡蕎麦作入、権現ヶ迫芝灰四塚焼方(下人共) ○八ッ半 ^ト 九ッ時 ^ト 城之裏・権現ヶ迫行(舍人)
五・十二	六・卅	○内ニ召仕(下人共)	七・廿六	九・十一	○木挽
五・十三	七・一	○八幡馬場屋敷雑葉引(女杯)	七・廿七	九・十二	○木挽
五・十四	七・二	〔朝〕 ^ト びん掛雑葉引	七・廿八	九・十三	○木挽
五・十七	七・五	〔朝〕 ^ト びん掛雑葉引	七・廿九	九・十四	○木挽・大工
五・十八	七・六	○田植			
五・十九	七・七	○田植成就			
五・廿六	七・十四	○八ッ ^ト 権現ヶ迫大豆作入(倭佐・下人共三人)			

八・朔	九・十五	○木挽・大工	十・二十一・十四	○隱居家解(前田村甚太・町与三次)
八・二	九・十六	○木挽・大工	十・三十一・十五	○家解・運方(朝・濟)(前田村甚太・町与三次)
八・三	九・十七	○大工式人	十・五十一・十七	○屋地細石負(馬六疋)
八・四	九・十八	○大工式人	十・六十一・十八	○地堅(下人共五人・加勢九人)
八・五	九・十九	○大工式人・木挽式人	十・七十一・十九	○柱石居 <small>(櫓カ)</small> (本城石切三人)
八・九	九・廿三	○崎山・杉木見合(舍人・大工・木挽)	十・八十一・廿	○隱居家立
八・廿四	十・八	○(四ツ時)日入前(城之裏・権現ヶ迫胡麻見廻り、千町田万石見廻り、佐牟田赤靱取之所へ行(舍人)	十・九十一・廿一	○(朝)かな手本辰シ(三太郎)
九・二	十・十五	○(五ツ時)暮六ツ半(千町田万石取(舍人・外に六人)	十・廿四十二・六	○(七ツ時分)る <small>(孫惣)</small> ひ藁貫ニ鎌田松齋へ遣ス(次郎)
九・三	十・十六	○町彦市所ニ糶取(三太郎) ○(五ツ時)一八ツ過(千町田万石取(人数六人)	十一・七十二・十八	○崎山へ木挽助太郎召列・権現ヶ迫・川路・城之裏大豆引見廻(舍人)
九・四	十・十七	○(五ツ時)一暮(千町田万石取(七人)	十二・十一	○本城之領分共參候事
九・十六	十・廿九	○垣普請加勢(田舎社人共)	十二・十二	○覺取繕(多仲) ○井炉裏塗方(町助吉) ○障子張(市来弥一郎)
九・十七	十・卅	○泊り居今日迄(加勢(福見四郎・前田之正八) ○出産・波見浦へ醫師迎エ(駕籠持夫四人・市来弥一郎)	十二・十三	○牛馬療治(始良馬医浅右衛門)
九・晦	十一・十二	○今日(戸壁相放候)	十二・廿一	○(昼)煤さけ ○(晚)箸かき
			十二・廿六	○守屋泰造墓石持
			十二・廿七	○泰造墓石立(石切・福留門小太郎・新左衛門)

万延二年(文久元年)(一八六一)

正・四	二・一三	〇乙名祝
正・九	二・一八	〇〔四ツ時―四ツ過〕崎山杉木伐方(舍人・有馬宗右衛門・日高万作)
正・廿	三・一	〇〔五ツ時―日入時分〕中原杉山下草拈(舍人・下人五人)
正・廿三	三・四	〇中原杉山下草拈(下人其共)〇〔五ツ過―八ツ過〕中原行(舍人)
正・廿七	三・八	〇波見浦重新兵衛手伝之者参ル
二・廿六	四・五	〇〔九ツ時―暮〕塚崎・横頭抱地行、ひめ椿植付、崎山行ひめ椿植付、杉差入(舍人・三太郎・金太・八十)
三・十一	四・廿	〇ふるふ・胡瓜蒔入
三・十七	四・廿六	〇小森茶つみ
三・十八	四・廿七	〇茶炒
三・廿二	五・一	〇茶炒
七・六	八・十一	〇垣つみ(市来弥一郎)
七・七	八・十二	〇冬鷓戸参詣召列(けさ次郎)

七・一	八・廿三	〇煙草もき方(舍人)
七・廿四	八・廿九	〇〔朝〕麻取
八・廿	九・廿四	〇障子張(日高彦五郎)
九・七	十・十	〇赤扱取(仁平太) 〇庭草取(福見四郎)
九・八	十・十一	〇築山其外つみ方(納一郎)
十一・廿八	十二・廿九	〇〔六ツ半―八ツ時〕尾瀬那唐芋打
十二・二	一・一	〇城之裏唐芋打(下人共) 〇〔四ツ時―暮時分〕城之裏、永山之地藏院松山へ行(舍人)
十二・三	一・二	〇〔七ツ過―〕永山納一郎松山行(舍人、八十)

文久二年(一八六一)

二・十一	三・十一	〇〔四ツ時―八ツ〕煙草切(市来弥一郎)
二・十九	三・十九	〇〔五ツ時―六ツ時〕崎山杉下草拈(舍人・下人共三人)
二・廿五	三・廿五	〇〔五ツ時―〕崎山杉下草拈(舍人・下人共)
二・廿九	三・廿九	〇〔九ツ過々〕権現ヶ迫ヶ城之裏畠見廻り

三・朔	三・卅	(舍人・倭佐・後に下人三太)
三・四	四・二	○崎山杉下草払(倭佐・下人共・舍人)
三・五	四・三	○(四ツ時々)城之裏行・大根草見廻り・ 三反阜大根草見廻り(舍人)
		○佐牟田下田開(三太郎・金太郎・倭佐)

〔後記〕

守屋舍人日帳の所蔵者守屋雄次郎氏はじめ高山町の多くの方々、ことに守屋貞子氏・守屋泰造氏・日高栄子氏・柿元東氏・中村建爾氏に厚く感謝の意を表す。